

桜島大噴火に備える

日頃の備え

●事前に避難先を決定

- ・桜島から離れた降灰の影響がない避難先(親戚宅・友人宅など)を探しましょう。
- ・風向きによって降灰の範囲が変わるので、複数の避難先を検討しましょう。

●長期の避難生活に備えて食料などを備蓄

- ・数日間の降灰や、降灰による土石流の影響で、避難生活が長引くことが予想されます。避難生活に必要なものを備蓄しておきましょう。

噴火予報及び噴火警報が発表されたら

- 降灰を避けるため風向きを確認し、風向きに対して直角方向に避難
- 大地震の発生に注意(P34参照)
- 海岸付近にいる方は、津波のおそれがあるので、高台に避難

火山に関する情報の入手先

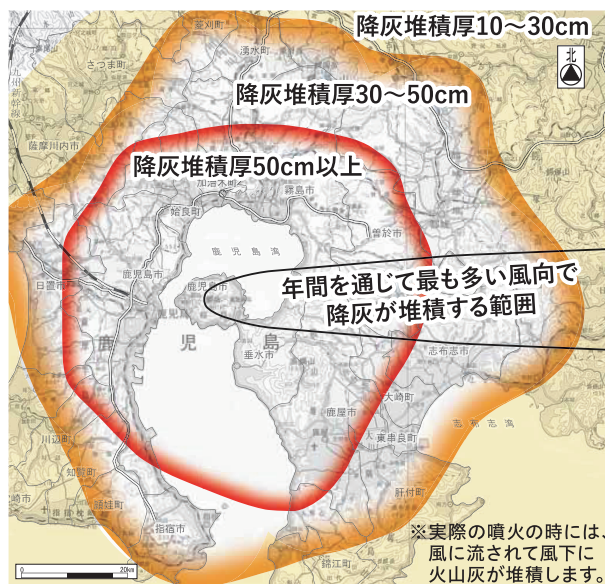


気象庁
火山活動の状況
(桜島)

気象庁
降灰予報
(桜島)



大規模噴火時の降灰分布予測



桜島火山防災検討委員会の資料より

※大正噴火では、大量に噴出した軽石・火山灰が、西寄りの風に乗り輝北地区や高隈地区を中心に大量に降り注ぎ、最も多いところでは1m以上降り積もるなど、辺り一面、灰色に埋め尽くされました。

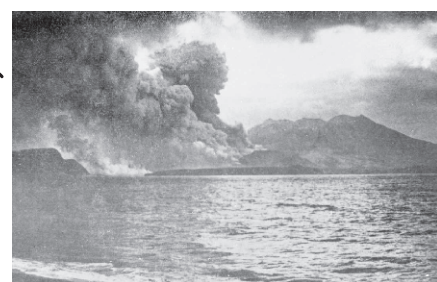
鹿屋市で予想される噴火の影響

予想される噴火シナリオ	現象	影響
前兆現象	地震	桜島の周辺地域でも地震が群発します。
噴火の開始	大地震	大規模噴火に伴い、震度5強程度の地震が発生する可能性があります。
	津波	地震や海底噴火などにより約2mの津波が発生する可能性があります。
	降灰	噴火の際は大量の降灰が数日続き、噴火後の2~3日で50cm以上になる可能性があります。 ▼降灰堆積厚ごとの影響の目安 50cm程度 ・木造家屋が倒壊する可能性があります。 ・山間部では、土石流が多発します。 30cm程度 ・河川では、洪水氾濫が起こりやすくなります。
噴火の終息	土石流・洪水	火山灰が積もると、少しの雨でも洪水や土石流が発生しやすくなります。大正噴火時は、その後十数年にわたり、災害が発生したとされています。

大正噴火時の状況

大正3年1月12日に起きた桜島の大正噴火は、溶岩や大量の軽石・火山灰を降らせたほか、地震、津波、地盤沈下、土石流なども発生し、桜島を中心に死者・行方不明者58人、負傷者112人、全焼家屋2,148戸、全倒家屋113戸の被害が発生しました。

現在、桜島のマグマの蓄積は、2020年代に大正噴火が起こる前のレベルまで戻るとということが推定されており、大正噴火級の大規模噴火への警戒が必要です。



牛根村(現在の垂水市牛根)から撮影された大正噴火



火山灰が積もった民家(現在の輝北町上百引)

避難の準備

両手があくようにリュックに入れておく

非常持出品

※背負って走れる程度の重さに(重量10kg以下が目安)

- 非常食
- 飲料水
- 常備薬・お薬手帳
- 洗面道具
- 歯みがき用具
- 貴重品(通帳・マイナンバーカード・印鑑等)
- 現金
- 家・車のカギ
- はさみ・缶切り
- 筆記用具
- 携帯電話・充電器
- ラジオ
- 懐中電灯・乾電池
- 軍手
- 衣類
- 寝具



自宅や避難所で過ごすための物

備蓄品

※食品類の賞味期限や用品の点検を定期的に行いましょう!

最低でも3日分(できれば7日分)を備蓄

- 飲料水(1日3L×家族の人数×3日分)
- 食料(インスタント・レトルト・缶詰など)
※大規模災害時には、ライフラインや物流の復旧に時間を要することが考えられるため、調理に手間のかからないものを各自で十分に用意しておく。
- カセットコンロ
- トイレットペーパー
- ポリタンク
- 洗面・風呂セット
- 紙皿・紙コップ・割り箸
- ガムテープ
- ラップ・ポリ袋
- カセットボンベ
- 携帯トイレ

家族構成に合わせた準備を

乳幼児に必要な物

- ミルク(粉・液体)・哺乳瓶
- 離乳食
- 紙おむつ・おしり拭き
- 母子健康手帳 など

ペットに必要な物

- フード、水(5日以上)
- ペットシート
- 予備の首輪、リード
- 薬や療法食
- 食器 など

その他必要な物

- ウェットティッシュ
- ビニールシート
- 使い捨てカイロ
- アイマスク

「ローリングストック」で常時保存

使いながら備蓄する

普段から食べている食品を少し多めに買って置き、賞味期限が切れる前に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法(飲料水、レトルト食品、缶詰など)



災害に備えるうえで、必要な三要素「自助」「共助」「公助」

災害による被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助の連携が不可欠です。特に、「自助(自分の命は自分で守る)」、「共助(自分たちの地域は自分たちで守る)」の考え方が重要になります。

